

- 出水地域は県下有数の高級牛肉産地だが、小中規模の家族経営が多く、**休日確保や労働力不足は長年の課題**。
- 酪農組合や農協と連携し、酪農ヘルパーの肉用牛農家への派遣を検討するも、実現に至らず。
- このため農政普及課では、**農家が主体となって運営する肉用牛ヘルパー組織の結成を提案。関係機関とともに、組織化やヘルパー確保を支援した結果、県内初の肉用牛ヘルパー組合が令和2年9月に設立**。
- その結果、**組合員1戸あたり月1.7回の休日確保**を実現。

## 具体的な成果

## 1 農家が運営する肉用牛ヘルパー組合の設立

組合員数	16戸
生産牛総頭数	814頭
肥育牛総頭数	525頭
ヘルパー数	2名



## 2 肉用牛農家の休日を確保

- 休息や通院等の健康管理、学校行事や地域行事への参加が可能。農繁期の労働力補完も実現。

	R 3 1月～12月	R 4 1月～12月	(参考) R 5 1月～6月
組合員数	16	14	14
利用回数	281	263	145
戸当月回数	1.5	1.6	1.7

## 3 無料アプリ活用でシフト作成の簡素化

- 組合員同士が画面を共有することで、シフト表作成事務の簡素化を支援。



## 普及指導員の活動

## 令和元年度

- 肉用牛農家へ聞き取り調査を実施し、ヘルパー組合設立に対する**要望を把握**。
- 中心となる農家6戸及び関係機関団体を参集し、ヘルパー組合**発起人会を開催**。
- 発起人と、県外の**先進事例調査を実施**。

## 令和2年度

- **規約及び料金体系の検討**。
- 補助事業を活用し、**税理士及び社会保険労務士による勉強会を実施**。
- 市広報誌を活用し**ヘルパー募集を支援**。
- **ヘルパー組合設立総会を開催**。

## 令和3年度

- 補助事業を活用して**パソコン等を整備し、事務作業の簡素を支援**。
- ヘルパー作業スキルアップのため、**補助事業でフォークリフト免許取得を支援**。
- 先進地から講師を招き**全体研修会を開催**。

## 普及指導員だからできたこと

・生産現場に近い普及員だからこそ、**農家が何に悩み、何を求めているかを感じ、活動を具体化することが出来た**。

・日頃から培った、関係機関や専門家集団との**連携を活かすことで、スムーズな組織化と円滑な運営継続につなげることができた**。

## 鹿児島県

### ゆとりある肉用牛経営をめざして ～肉用牛農家の定休を実現するヘルパー組織の設立～

活動期間：令和元年度～（継続中）

#### 1. 取組の背景

阿久根市、出水市及び長島町からなる出水地域は、肉用牛肥育技術に長けた県下有数の高級牛肉産地だが、肉用牛経営においては、以前から休日確保や不測の事態に対応する労働力補完組織育成の要望があった。そこで農政普及課では平成29年度にJA及び酪農組合と連携し、肉用牛農家への酪農ヘルパー派遣を検討したが実現しなかった。

令和元年度に、肉用牛農家に対しヘルパー組織育成に係る聞き取り調査を行った結果、20戸を超える農家の賛同を得たため、ヘルパー組織設立及び運営支援を目標とした普及活動に取り組んだ。

#### 2. 活動内容（詳細）

##### （1）組合設立支援

ア 令和元年度に、肉用牛ヘルパー組織育成を希望する農家数を把握するため、管内2市1町で聞き取り調査を実施。賛同者が20戸以上あったことから、普及指導計画に位置づけ、設立支援への取り組みを開始。

イ 令和2年1月に、肉用牛ヘルパー組織育成に賛同した農家の中から6戸を発起人とし、関係機関及び団体を参集して発起人会を開催。

ウ 令和2年2月に、先進事例調査として、長崎県南島原市のヘルパー組合を発起人とともに視察。



〈発起人会の発足〉



〈先進地視察研修〉

エ 令和2年4月以降、定期的に発起人会を開催。組合の骨格となる規約及び申し合わせの作成、ヘルパー利用料金の設定等について、関係機関と連携しながら作成を支援。設立までに延べ6回開催。

オ 令和2年8月に税理士及び社会保険労務士を招き、組合の形態（法人か

- 任意か), 税務上の扱い等について研修会を実施 (R 2 農業経営者総合サポート事業のうち農業経営者サポート事業)
- カ 令和 2 年 8 月に阿久根市と連携し, 広報誌にヘルパー募集広告を掲載。応募者 3 名のうち 2 名をヘルパーとして採用。



〈発起人会の様子〉

- キ 令和 2 年 9 月に, 関係機関及び団体の立ち会いのもと, 肉用牛ヘルパー組合「出水地域肉用牛作業受託組合」の設立総会を開催。

## (2) 組合活動の運営支援

- ア 手作業事務の負担を軽減するため, パソコン及びプリンターを整備。(令和 2 年度ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業)。
- イ 機械作業の安全性を確保するため, ヘルパーのフォークリフト免許取得を支援。(令和 2 年度ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業)
- ウ シフト表入力アプリの講習会や, 先進地より講師を招いての, 組合活動への意識向上をはかるための全体研修会を開催。(令和 2 年度ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業)



〈全体研修会〉



〈シフト表入力講習会〉

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 農家が運営する肉用牛ヘルパー組合の設立

令和2年9月に、県内で初となる肉用牛農家のためのヘルパー組合「出水地域肉用牛作業受託組合」が設立。当時の組合員数は16戸（うち事務局を1戸が兼務）、ヘルパー2名。組合員の生産牛総飼養頭数814頭、肥育牛総飼養頭数525頭。

#### 〈利用料金体系〉

飼養形態	飼養規模	1回利用料金 (円)	入会金・年会費 (円)
繁殖牛	50頭以下	8,000	入会金 20,000 年会費 10,000
	51頭以上	11,000	
肥育牛	150頭以下	8,000	
	151頭以上	11,000	
一貫	一律	11,000	

#### (2) 肉用牛農家の休日を確保

組合の設立により、それまで無休だった肉用牛農家の休日確保が実現。ヘルパー利用回数は、令和3年度は1組合員あたり月1.5日だったが、直近（令和5年1～6月集計）で1組合員あたり1.7回に増加。ヘルパーの休日（月6日）を考慮すると既に利用回数は上限に達しているため、ヘルパーの増員に向けて活動中。

#### 〈ヘルパー利用回数の推移〉

	R3 1月～12月	R4 1月～12月	(参考) R5 1月～6月
組合員数	16	14	14
利用回数	281	263	145
戸当月回数	1.5	1.6	1.7

#### (3) 無料アプリ活用でシフト作成の簡素化

電話やメール等で組合員から個別にヘルパー利用希望日を聞き取るシステムから、無料アプリ（タイムツリー）を使って各自が日程を入力できるシステムに変更することで、事務局の作業を簡素化。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(出水市 出水地域肉用牛作業受託組合 初代組合長 大野純照氏)

私達畜産農家は家族労働のため、決まった休日がなく毎日仕事に追われるばかりだったが、組合のお陰で長年の夢だった夫婦での日帰り旅行など、時間を気にせず外出できるようになった。また、農繁期にはヘルパーに牛の管理を任せ、別の作業に専念出来るので助かっている。農家とヘルパーのコミュニケーションも良好で、信頼関係が築けている。行政等から金銭的援助があれば、組合活動がより活性化できると思う。

(長島町 出水地域肉用牛作業受託組合 現副組合長 福山健一氏)

これまで1人作業だったが、ヘルパーが来てくれるようになり気持ちゆとりが生まれた。また、他者が作業に加わることで自らの経営や作業工程を見直すことが出来た。事務局と組合員のやりとりに無料アプリを採用したことで事務局の負担が大きく軽減した。今後は厚生年金加入などを検討し、若い人が就職先としてヘルパーを選択し安い環境を整えていければ、と思う。

#### 5. 普及指導員のコメント（所属・役職・氏名を記入）

(北薩地域振興局農政普及課出水市駐在 技術主幹 田上美紀)

「牛がいるのだから年中無休は当たり前」という考えが根強く、通院や冠婚葬祭のみならず心身の疲れをとるための休息さえ遠慮しがちだった肉用牛農家が、自分達のために設立したヘルパー組合。現在、利用回数は上限に達し、ヘルパー追加募集が急務である。結成3年目を迎える令和5年度には、JAから活動助成金が拠出されるほど周囲の認知度も上昇している。

今後、関係機関及び団体と連携しつつ、組合が発展的に継続できるよう支援していきたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

現在、出水地域肉用牛作業受託組合は組合員数14戸、ヘルパー1名、事務局1名の体制で安定した運営を継続している。結成当初は利用者数の減を案じたが、現在はヘルパー増員を希望する声が多い。

今後は、ヘルパー複数体制を確立し、厚生年金加入を含む労務環境整備や法人化の検討もしつつ、牛飼いに興味を持つ将来の担い手が研修する場としての組合の存在意義も視野に、肉用牛経営を持続する仕組みとして組合活動を確立する。